

・本資料は効果効能を保証するものではありません。
・本資料の著作権は株式会社キティーに帰属します。当社に事前の承諾無く、複製等の行為は固くお断りいたします。

母から子へ受け継がれる乳酸菌 クリスパタス菌の最新研究

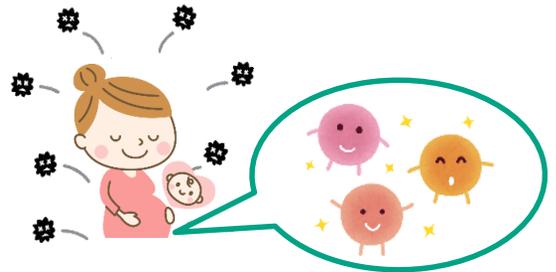
健康食品素材として注目される乳酸菌は発酵食品・乳製品・植物・腸内細菌など、幅広く存在し、自然界で様々な役割を担っていることが明らかになっています。

このレポートでは、腸内や女性の産道に存在する乳酸菌、クリスパタス菌 (*Lactobacillus crispatus*) の最新研究情報を紹介します。

クリスパタス菌は女性の産道を病原菌から守る役割を持つ

Petrova et al. *Frontiers in Physiology*, 2015.

クリスパタス菌をはじめとする腔内常在菌は、乳酸を大量に分泌することで腔内のpHを低下させ、外から入ってくる病原菌（カンジダ感染症）の増殖を抑える働きを持っています。またクリスパタス菌の多い女性について、HIV発症のリスク軽減にも関連しているというデータが得られています。



通常分娩…母親の産道の乳酸菌



帝王切開…母親の皮膚常在菌

出生経路によって新生児の腸内に存在する乳酸菌の占有率が変化する

Maria et al. *PNAS*, 2010.

出生経路が通常分娩の新生児は、腸内細菌叢が母親の産道の菌叢に近く、ラクトバチルス属の乳酸菌が多く存在することが明らかになりました。また、帝王切開の場合は、腸内細菌叢が母親の皮膚常在菌に近いことから、出生経路における初期の腸内環境の重要性が示されています。

口腔内にクリスパタス菌が存在する子供はアレルギーの発症リスクが低下する

Dzidic et al. *Allergy*, 2018.

7歳までの子供の口腔内細菌を調査したところ、健康な子供の口腔内において、クリスパタス菌やガセリ菌が多く、アレルギーの発症率が低いことが明らかになりました。幼少期において体内に存在する菌の種類により、免疫系の発達に影響を与えていることが考えられます。

クリスパタス菌



アレルギーリスク ↓

歯周病菌数 ↓

歯茎の腫れ ↓

歯垢の量 ↓

口腔内環境浄化



クリスパタス菌の摂取は口腔免疫を強化する

Tobita et al. *Benef Microbes*, 2018.

ヒト臨床試験において、赤ちゃん由来のクリスパタス菌 (*Lactobacillus crispatus* KT-11株) を1か月間摂取した成人グループでは、唾液中に含まれる歯周病の原因菌 (*P. gingivalis*, *T. denticola*) の菌数が、プラセボに比べ優位に減少しました。特に女性では歯茎の状態もよくなり、クリスパタス菌の摂取による口腔免疫への効果が確認されました。

自然界で希少性の高いクリスパタス菌は、各分野での機能研究が盛んになり、様々な知見や効果が確認されています。女性と子どもを守るクリスパタス菌で、日々の健康サポートを心がけてみてはいかがでしょうか。

【本件に関する御問い合わせ】

株式会社キティー バイオ事業部 〒160-0007 東京都新宿区荒木町5 四谷荒木町スクエア
TEL:03-6457-7990 FAX:03-6457-7992

カラダにオキシキティー

Kitii